

北海道浮魚ニュース

平成 24 (2012) 年度 3 号

2012 年 5 月 25 日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 18 日 ~ 25 日の期間、北海道松前沖から秋田県沖にかけての日本海と函館沖で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

調査海域のスルメイカ分布密度は昨年を上回った。漁期開始直後の主漁場は松前沖周辺になると予想される。魚体サイズは過去 5 年平均より小さい。

1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 6 点の表面水温は 10.2 ~ 14.3 (昨年 9.7 ~ 15.2)、水深 50 m の水温は 2.9 ~ 12.7 (昨年 5.2 ~ 10.9) の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温分布は、秋田沖から松前沖にかけての沿岸部では 10 以上の比較的高い水温でしたが、北緯 40 度以北、東経 139 度以西の沖合に 6 以下の低水温の海域が昨年より広い範囲で見られました。海域全体とし

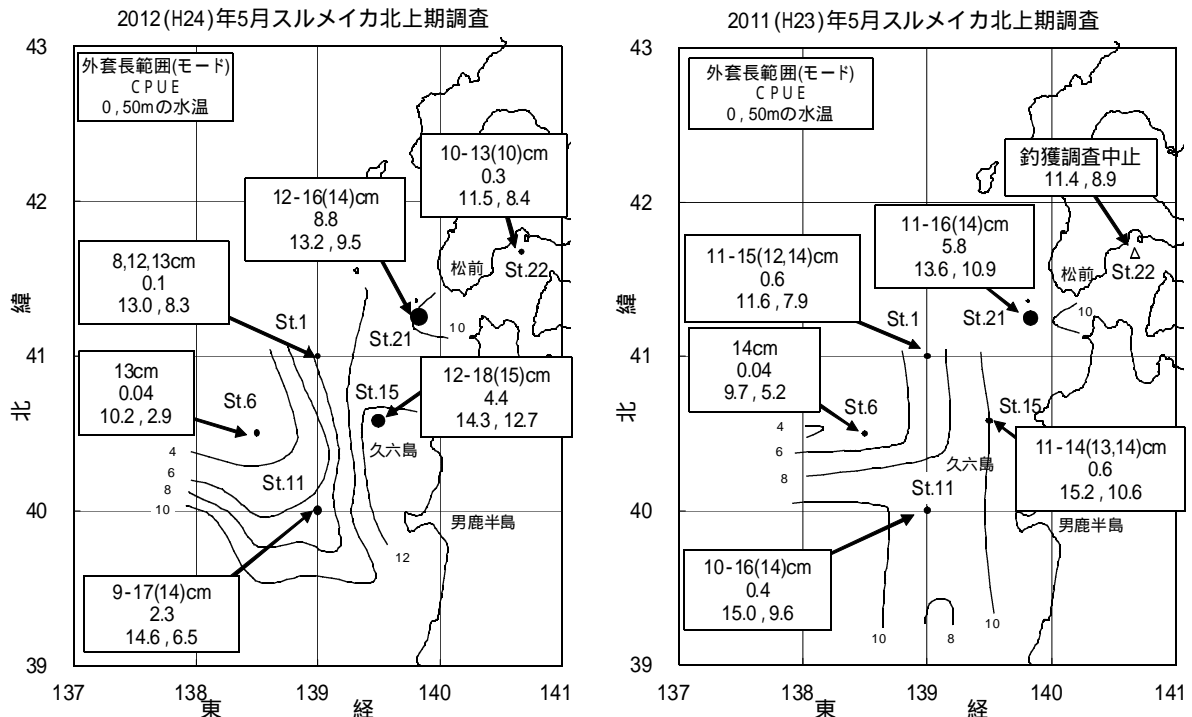


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 (2011 年との比較)。は漁獲調査点。面積は CPUE に比例。は釣獲調査中止。等温線は水深 50m の水温 ()

て、沿岸寄りで水温が高い傾向が見られました。

2. 分布密度 (図1、図2)

松前沖 St.21 以南の漁獲調査点 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0.04 ~ 8.8 (昨年 0.04 ~ 5.8) の範囲にあり、最も CPUE が高かったのは松前沖の St.21 (CPUE 8.8) でした。

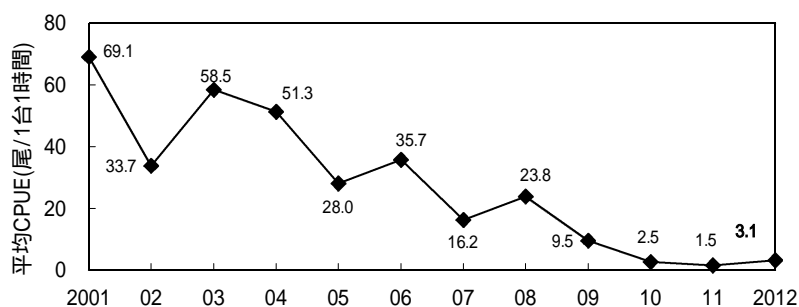


図2 松前以南5定点の平均CPUEの経年変化(2001年以降)

各調査点のCPUEは津軽半島沖 St.1 と青森県久六島西方沖 St.6 を除くすべての点で昨年を上回り、全体的に沿岸寄りの調査点で高い傾向が見られました。これは、沖合の水温が低く、魚群の分布が沿岸寄りとなっているためと考えられます。

St.21 以南の5地点の平均CPUEは3.1で、2001年以降で最も低かった昨年の値(1.5)を上回りましたが、2001年以降では3番目に低い値でした。調査海域の南側である秋田県沖から青森県沿岸にかけてのCPUEが過去2年と同様に2001年以降では低い値となっていることから、魚群の北上は全体的に遅れているものと思われます。函館沖 St.22 のCPUEは0.3と低く、津軽海峡内にはまだ漁場が形成されていないと見られることから、漁期開始直後の主漁場は例年どおり松前沖周辺になると予想されます。

3. スルメイカの大きさ

調査海域全体のスルメイカ外套長(胴長)の範囲は8~18cm(昨年10~16cm)でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ(モード)は13cm(昨年14cm)で、全体的な魚体サイズは過去5年平均より小型でした(図3)。各調査点のモードの範囲は8~15cm(昨年12~14cm)にありました(図1)。

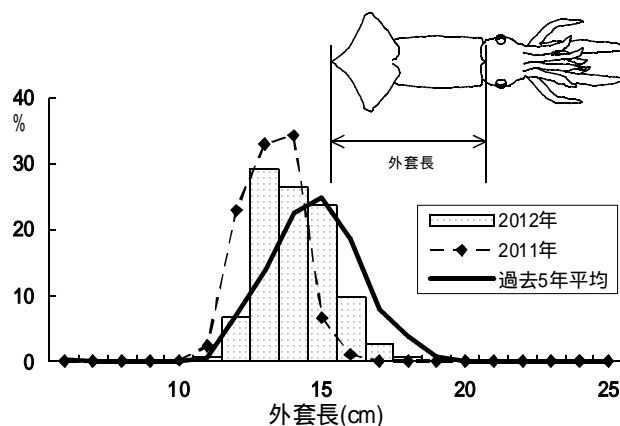


図3 調査海域全体の外套長組成

(文責：函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991)